

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年2月13日
【四半期会計期間】	第14期第3四半期（自平成30年10月1日至平成30年12月31日）
【会社名】	株式会社日本動物高度医療センター
【英訳名】	Japan Animal Referral Medical Center Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平尾 秀博
【本店の所在の場所】	神奈川県川崎市高津区久地二丁目5番8号
【電話番号】	044-850-1320（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 石川 隆行
【最寄りの連絡場所】	神奈川県川崎市高津区久地二丁目5番8号
【電話番号】	044-850-1320（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 石川 隆行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第3四半期連結 累計期間	第14期 第3四半期連結 累計期間	第13期
会計期間	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成30年4月1日 至平成30年12月31日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日
売上高 (千円)	1,683,828	1,924,049	2,258,890
経常利益 (千円)	218,235	321,288	263,501
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	161,925	260,387	208,092
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	161,925	260,387	208,092
純資産額 (千円)	1,471,564	1,793,314	1,527,881
総資産額 (千円)	6,257,941	6,126,044	5,932,567
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	68.47	107.82	87.63
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	65.05	103.30	83.34
自己資本比率 (%)	23.5	29.3	25.8

回次	第13期 第3四半期連結 会計期間	第14期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日	自平成30年10月1日 至平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	22.27	46.58

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、緩やかに回復しております。鉱工業生産は、2018年夏場に相次いだ自然災害による供給制約が解消に向かう中、緩やかに回復しております。設備投資は、高水準の企業収益を背景とした、製造業の能力増強投資、人手不足対応の省力化投資、東京五輪関連の建設投資が活発化しており、堅調に推移しております。一方個人消費は、雇用・所得環境の改善が続いているものの、物価上昇による実質所得の伸び悩みを受け、緩やかな持ち直しにとどまっております。

このような環境のなか、当社グループは、動物医療業界において、飼い主のかかりつけ動物病院（一次診療施設）と連携して高度医療への取り組みを続けるとともに、当社グループ内の診療実績を発表するための学会報告や、獣医師向けセミナー開催を積極的に行うことにより、動物医療業界における信頼の獲得、認知度の向上と、それに伴う紹介症例数の増加に努めてまいりました。首都圏東部・北部のエリアをカバーする第3の診療施設として平成30年1月に東京都足立区に開院した東京病院も順調に推移しており、全体として初診数（新規に受け入れた症例数）は4,505件（前年同期比24.1%増）、総診療数（初診数と再診数の合計）は17,836件（前年同期比15.3%増）、手術数は1,333件（前年同期比14.1%増）となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,924,049千円（前年同期比14.3%増）、営業利益は314,339千円（前年同期比34.0%増）、経常利益は321,288千円（前年同期比47.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は260,387千円（前年同期比60.8%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,499,370千円となり、前連結会計年度末に比べ345,308千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が364,280千円増加したことによるものであります。固定資産は4,626,673千円となり、前連結会計年度末に比べ151,832千円減少いたしました。これは主に減価償却によるものであります。

この結果、総資産は、6,126,044千円となり、前連結会計年度末に比べ193,476千円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は868,803千円となり、前連結会計年度末に比べ132,829千円増加いたしました。これは主に未払消費税等が64,718千円及び1年内返済予定借入金が62,874千円増加したことによるものであります。また、固定負債は3,463,926千円となり、前連結会計年度末に比べ204,786千円減少いたしました。これは主に長期借入金の返済によるものであります。

この結果、負債合計は、4,332,729千円となり、前連結会計年度末に比べ71,956千円減少いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,793,314千円となり、前連結会計年度末に比べ265,433千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益260,387千円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、100千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成31年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,419,700	2,419,700	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数100株
計	2,419,700	2,419,700	-	-

(注) 1. 発行済株式のうち35,000株は現物出資(金銭報酬債権74,480千円)によるものであります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、平成31年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日(注)	2,200	普通株式 2,419,700	550	381,375	550	281,375

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,414,900	24,149	-
単元未満株式	普通株式 2,600	-	-
発行済株式総数	2,417,500	-	-
総株主の議決権	-	24,149	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

なお、当第3四半期会計期間末日現在の状況については、株主名簿の記載内容が確認できておりませんが、自己株式については、当第3四半期会計期間において単元未満株式を取得したことにより、当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は23株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は平成30年7月1日をもって名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	890,346	1,254,626
売掛金	118,423	149,189
商品	41,972	51,981
貯蔵品	4,675	4,080
その他	105,791	48,012
貸倒引当金	7,146	8,519
流動資産合計	1,154,062	1,499,370
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,727,476	1,662,075
土地	2,228,267	2,228,267
その他(純額)	597,643	527,247
有形固定資産合計	4,553,388	4,417,590
無形固定資産	24,415	22,647
投資その他の資産	200,701	186,434
固定資産合計	4,778,505	4,626,673
資産合計	5,932,567	6,126,044
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,219	50,419
1年内返済予定の長期借入金	494,509	557,383
未払法人税等	38,534	43,321
賞与引当金	42,865	23,896
その他	113,845	193,782
流動負債合計	735,973	868,803
固定負債		
長期借入金	3,616,466	3,407,577
退職給付に係る負債	12,200	16,000
資産除去債務	40,046	40,348
固定負債合計	3,668,712	3,463,926
負債合計	4,404,686	4,332,729
純資産の部		
株主資本		
資本金	378,825	381,375
資本剰余金	334,143	336,693
利益剰余金	814,912	1,075,299
自己株式	-	53
株主資本合計	1,527,881	1,793,314
純資産合計	1,527,881	1,793,314
負債純資産合計	5,932,567	6,126,044

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	1,683,828	1,924,049
売上原価	1,066,673	1,221,419
売上総利益	617,155	702,630
販売費及び一般管理費	382,540	388,290
営業利益	234,614	314,339
営業外収益		
受取家賃	17,170	17,977
その他	2,206	6,270
営業外収益合計	19,376	24,247
営業外費用		
支払利息	17,429	12,944
資金調達費用	17,823	3,238
その他	501	1,116
営業外費用合計	35,754	17,298
経常利益	218,235	321,288
特別損失		
退職給付費用	9,600	-
特別損失合計	9,600	-
税金等調整前四半期純利益	208,635	321,288
法人税等	46,710	60,900
四半期純利益	161,925	260,387
親会社株主に帰属する四半期純利益	161,925	260,387

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	161,925	260,387
四半期包括利益	161,925	260,387
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	161,925	260,387

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	118,978千円	168,930千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、動物医療関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	68.47円	107.82円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	161,925	260,387
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	161,925	260,387
普通株式の期中平均株式数(株)	2,364,676	2,414,799
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	65.05円	103.30円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	124,518	105,848
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月13日

株式会社日本動物高度医療センター
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 米山 昌良
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 田中 友康
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本動物高度医療センターの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社日本動物高度医療センター及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。